

研修カリキュラム表（臨時的代替方法・介護職員初任者研修課程 通信）

事業者名：パルシステム生活協同組合連合会

※実施方法については、「実施要綱」別紙3「各項目の到達目標、評価、内容」を網羅した内容とすること。

研修カリキュラム(実施要綱別紙1)		実施計画				臨時的代替方法による実施内容			
講義・演習(実習)		カリキュラム名・時間数		実施内容					
1 職務の理解	6 時間	1 職務の理解 6 時間		1 職務の理解		1 職務の理解		6 時間	
		通学	通信	合計		通学	通信	合計	
(1) 多様なサービスの理解		3	0	3	(1) 講義のみ	0	3	3	
(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解		3	0	3	(2) 講義・演習:視聴覚教材を用い、働く現場についてグループ毎に話し合っ発表をします。	0	3	3	
2 介護における尊厳の保持・自立支援	9 時間	2 介護における尊厳の保持・自立支援 9 時間		2 介護における尊厳の保持・自立支援		2 介護における尊厳の保持・自立支援		9 時間	
		通学	通信	合計		通学	通信	合計	
(1) 人権と尊厳を支える介護		0	4	4	(1) 通信講習のみ	0	4	4	
(2) 自立に向けた介護		1.5	3.5	5	(2) 通信講習/講義・演習:介護予防・残存機能の活用をテーマとした事例について、グループで話し合います。	0	5	5	
3 介護の基本	6 時間	3 介護の基本 6 時間		3 介護の基本		3 介護の基本		6 時間	
		通学	通信	合計		通学	通信	合計	
(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携		1.5	0	1.5	(1) 講義のみ	0	1.5	1.5	
(2) 介護職の職業倫理		0	1.5	1.5	(2) 通信講習のみ	0	1.5	1.5	
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント		1.5	0	1.5	(3) 講義・演習:事故予防や感染予防等の事例に基づき、介護に関するリスクについてグループで話し合い発表をします。	0	1.5	1.5	
(4) 介護職の安全		0	1.5	1.5	(4) 通信講習のみ	0	1.5	1.5	

研修カリキュラム(実施要綱別紙1)	
講義・演習(実習)	
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	9 時間
(1) 介護保険制度	
(2) 障害福祉制度及びその他制度	
(3) 医療との連携とリハビリテーション	
5 介護におけるコミュニケーション技術	6 時間
(1) 介護におけるコミュニケーション	
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	
6 老化の理解	6 時間
(1) 老化に伴うこころとからだの変化と日常	
(2) 高齢者と健康	
7 認知症の理解	6 時間
(1) 認知症を取り巻く状況	
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	
(3) 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	
(4) 家族への支援	

実施計画				臨時的代替方法による実施内容			
カリキュラム名・時間数		実施内容					
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	9 時間	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	9 時間	通学	通信	合計
	通学	通信	合計		通学	通信	合計
(1) 同左	1.5	1.5	3	(1) 通信講習/講義・演習:介護保険制度の理解を深めるため、申請から支給決定迄のフローチャート作成の実技演習をします。	0	3	3
(2) 同左	0	3	3	(2) 通信講習のみ	0	3	3
(3) 同左	0	3	3	(3) 通信講習のみ	0	3	3
5 介護におけるコミュニケーション技術	6 時間	5 介護におけるコミュニケーション技術	5 介護におけるコミュニケーション技術	6 時間	通学	通信	合計
	通学	通信	合計		通学	通信	合計
(1) 同左	3	0	3	(1) 講義・演習:言語・非言語コミュニケーション技術を学ぶため、障害者や認知症に応じた対応方法をグループで話し合います。	0	3	3
(2) 同左	0	3	3	(2) 通信講習のみ	0	3	3
6 老化の理解	6 時間	6 老化の理解	6 老化の理解	6 時間	通学	通信	合計
	通学	通信	合計		通学	通信	合計
(1) 同左	3	0	3	(1) 講義・演習:例題を設定し、その例題に基づいてグループでの話し合い発表をします。	0	3	3
(2) 同左	0	3	3	(2) 通信講習のみ	0	3	3
7 認知症の理解	6 時間	7 認知症の理解	7 認知症の理解	6 時間	通学	通信	合計
	通学	通信	合計		通学	通信	合計
(1) 同左	0	1.5	1.5	(1) 通信講習のみ	0	1.5	1.5
(2) 同左	0	1.5	1.5	(2) 通信講習のみ	0	1.5	1.5
(3) 同左	1.5	0	1.5	(3) 講義のみ	0	1.5	1.5
(4) 同左	1.5	0	1.5	(4) 講義・演習:認知症の家族事例を聞き、どのような支援ができるか、グループで話し合い発表をします。	0	1.5	1.5

研修カリキュラム(実施要綱別紙1)	
講義・演習(実習)	
8 障害の理解	3 時間
(1) 障害の基礎的理解	
(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	
(3) 家族の心理、かかわり支援の理解	
9 ころとからだのしくみと生活支援技術	75 時間
ア 基本知識の学習	10～13時間
(1) 介護の基本的な考え方	
(2) 介護に関するころのしくみの基礎的理解	
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	
イ 生活支援技術の講義・演習	50～55時間
(4) 生活と家事	
(5) 快適な居住環境整備と介護	
(6) 整容に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	
(7) 移動・移乗に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	
(8) 食事に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	
(9) 入浴、清潔保持に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	
(10) 排泄に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	
(11) 睡眠に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	

実施計画				臨時的代替方法による実施内容		
カリキュラム名・時間数		実施内容				
8 障害の理解	3 時間	8 障害の理解	8 障害の理解	3 時間		
	通学 通信 合計			通学 通信 合計		
(1) 同左	0 0.75 0.75	(1) 通信講習のみ	(1) 通信講習のみ	0 0.75 0.75		
(2) 同左	0 0.75 0.75	(2) 通信講習のみ	(2) 通信講習のみ	0 0.75 0.75		
(3) 同左	1.5 0 1.5	(3) 講義・演習:障害者を持つ家族の気持ちや、家族が抱えるストレスについてグループで話し合っ発表します。	(3) 講義部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習)で実施します。	0 1.5 1.5		
9 ころとからだのしくみと生活支援技術	75 時間	9 ころとからだのしくみと生活支援技術	9 ころとからだのしくみと生活支援技術	75 時間		
ア 基本知識の学習	12 時間	ア 基本知識の学習	ア 基本知識の学習	12 時間		
	通学 通信 合計			通学 通信 合計		
(1) 同左	6 0 6	(1) 講義・演習:介護サービスと医療サービスの違いについて、グループで話し合い発表します。	(1) 講義部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習)で実施します。	0 6 6		
(2) 同左	0 3 3	(2) 通信講習のみ	(2) 通信講習のみ	0 3 3		
(3) 同左	0 3 3	(3) 通信講習のみ	(3) 通信講習のみ	0 3 3		
イ 生活支援技術の講義・演習	51 時間	イ 生活支援技術の講義・演習	イ 生活支援技術の講義・演習	51 時間		
	通学 通信 合計			通学 通信 合計		
(4) 同左	6 0 6	(4) 講義・演習:事例を示し、共に行う清掃、洗濯、調理等を演習します。	(4) 講義部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習)で実施します。	0 6 6		
(5) 同左	0 3 3	(5) 通信講習のみ	(5) 通信講習のみ	0 3 3		
(6) 同左	6.5 0 6.5	(6) 講義・演習:更衣・整容等の介助方法の基本を学び、利用者を想定し、更衣、整容の実技演習します。	(6) 講義部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題の学習)で、実技演習は同左とします。	3 3.5 6.5		
(7) 同左	6.5 0 6.5	(7) 講義・演習:移動・移乗の介助方法の基本を学び、利用者を想定し、移動・移乗の実技演習します。	(7) 講義部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題の学習)で、実技演習は同左とします。	3 3.5 6.5		
(8) 同左	6.5 0 6.5	(8) 講義・演習:食事介助方法の基本を学び、利用者を想定し、食事介助の実技演習します。	(8) 講義部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題の学習)で、実技演習は同左とします。	3 3.5 6.5		
(9) 同左	6.5 0 6.5	(9) 講義・演習:入浴・清潔保持の介助方法の基本を学び、利用者を想定した介助方法を考え実技演習します。	(9) 講義部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題の学習)で、実技演習は同左とします。	3 3.5 6.5		
(10) 同左	6.5 0 6.5	(10) 講義・演習:排泄介助方法の基本を学び、利用者を想定し、排泄介助の実技演習します。	(10) 講義部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題の学習)で、実技演習は同左とします。	3 3.5 6.5		
(11) 同左	6.5 0 6.5	(11) 講義・演習:利用者を想定した安眠の工夫、環境整備の実技演習します。	(11) 講義部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題の学習)で、実技演習は同左とします。	3 3.5 6.5		

研修カリキュラム(実施要綱別紙1)		実施計画				臨時的代替方法による実施内容				
講義・演習(実習)		カリキュラム名・時間数		実施内容						
(12) 死にゆく人に関するところとからだのしくみと終末期介護		(12) 同左	0	3	3	(12) 通信講習のみ		0	3	3
(実習)* (50~55時間中12時間以内)		(実習)*	0	時間		(実習)*				
介護実習	○時間				0					0
ホームヘルプサービス同行訪問	○時間				0					0
在宅サービス提供現場見学	○時間				0					0
ウ 生活支援技術演習	10~12時間	ウ 生活支援技術演習	12	時間		ウ 生活支援技術演習				12 時間
			通学	通信	合計			通学	通信	合計
(13) 介護過程の基礎的理解		(13) 同左	6	0	6	(13) 講義・実技演習:片麻痺または認知症等の事例から、基本的情報の整理、アセスメント、介護計画をグループで立案し、発表します。	(13) 講義部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題の学習)で、実技演習は同左とします。	3	3	6
(14) 総合生活支援技術演習		(14) 同左	6	0	6	(14) 講義・実技演習:片麻痺および認知症の2事例を使って、一連の自立に向けた介護過程の展開方法を考え、実技演習します。	(14) 講義部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題の学習)で、実技演習は同左とします。	3	3	6
10 振り返り	4 時間	10 振り返り	4	時間		10 振り返り				4 時間
			通学	通信	合計			通学	通信	合計
(1) 振り返り		(1) 同左	2	0	2	(1) 講義・演習:研修や実習を通して学んだことを振り返り、習得したことを確認し、各自発表します。	(1) 講義部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習)で実施します。	0	2	2
(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修		(2) 同左	2	0	2	(2) 講義のみ	(2) 講義部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習)で実施します。	0	2	2
追加カリキュラム	時間									
計 ( 130 時間 )		計 ( 130 時間 )						( 130 時間 )		

※「9ところとからだのしくみと生活支援技術」内で実習を行う場合、12時間以内とする。